

|  |
|--|
| <p>療養病棟などでの、おじいさんや、おばあさんの、小さな子供に戻られたような、ピュアで素直で、真っ直ぐで、生きる力に溢れた魅力的な姿を、もっともっと多くの人に、知ってもらえたら良いと思います。</p>  |
| <p>お年寄り自身が、子供や孫に優しく接する</p>   |
| <p>介護のセミナーとか、辞めないための OJT とかに力を入れた方が良いと思います。</p>  |
| <p>離職率の高さが取りざたされているので、各施設人材を大事にすること、長く働ける環境を整えることで福祉業界全体のイメージアップを図っていただきたい。</p>  |
| <p>介護職を専門職として認めてもらう</p>  |
| <p>いずれ自分たちもお世話になる可能性が高いということをより身近に感じられるような広報活動が必要かと思います。派手に広報するというよりも、地道に介護に関わった有名人などの講演を全国で展開することがより必要かと思います。</p>   |
| <p>高齢になるということはほとんどの人に訪れることである。人ごとではない、「明日は我が身」であるということを知ってもらえるためにも、幼少期からの高齢者とのふれあいの機会を増やすべきだと思う。</p> <p>核家族化により現代の子供は祖父母との関わりが激減している。実習だけで高齢者とふれあうのでは特別感が否めない。幼稚園、小学校との高齢者施設の併設、増設を望む。高齢者にとっても良いことだと思う。介護をイメージではなく、現実として見られるようになることが大切だ。現実の将来性のある「仕事」として見られなければ人材は集まらない。ただ低賃金だけでなく、業界内での昇進がケアマネージャーより上の資格が無かったり、役職としての枠が少なかったりスキルアップが望めないのも離職率が高い原因だろう。今介護と直接関わっていない学生や他職種の社会人にも高齢者とふれあう機会をとにかく増やすことから始めるべきだと思う。自分の将来の姿、現実なのだから。</p> |
| <p>よりよい職場の環境を造る。</p> <p>給料を増やす。</p> <p>介護の話をもっと多くの人に聴かせる(マスコミなどで)。</p>   |
| <p>人材不足の問題については、お給料が安すぎるから誰も働きたがらない。雇用賃金があげれば、よいだけ。</p>  |
| <p>身近な家族の多くの事例をたくさん発表することにより、関心を高め、また愛情が、そこに注がれていくように思います。</p>   |
| <p>厳しい現状ではありますが、そこで生き生きと生活する利用者、寄り添う介護職員の姿をメディアを通じて発信することも必要かと思います。</p>  |
| <p>気軽に来て頂ける施設見学の企画や、ポスターなど</p>   |
| <p>介護者が楽になるメッセージの波及。</p>   |

|   |
|---|
| <p>特別養護老人ホームに実習に行って感じたことがあります。決まった時間に食事、入浴、レクレーションとありますが、それは利用者様にとって生活の場で行われている事なのだと、毎日の生活をより良く過ごしていただくために職員の皆さんが頑張っておられるのだと思いました。働いている方の志の高さを知ることができ、介護の基本の心を教えてもらった気がしました。誇りを持ってできる仕事に携わりたいと思いました。</p>  |
| <p>キツイ・汚い・給料安いの3Kを忘れて、介護のより深い接し方などを学び、人と人とのつながりをより深めたいと思います。</p>  |
| <p>要介護者も社会における一員であり、生活者であるということを認識することが大切だと思います。つまり、障がい者もそうですが、特別な人ということではなく、普通に身近にいる人であるということを、まずは大人が理解することだと思います。</p>   |
| <p>「いい介護」「いい仕事」をそれぞれの法人が取り組み、それをそれぞれの地域において、しっかりと情報発信することが大切だと思います。</p>   |
| <p>研修も大事ですが、良い環境にある施設のDVD紹介がビジュアルで効果的だと思います。一方、悪い例の施設の実態を知ること興味深いです。介護希望者が善悪両面から判断・選択できる材料の提供を望みます。</p>   |
| <p>介護施設に行くボランティアを増やしていったり、日本全体で介護問題をもっと重要視し、ニュースやテレビで取り扱う機会をもうける。</p>   |
| <p>過去5年間、登録ヘルパーをしていました。今は、母の介護があるので、やっていません。介護ロボットの研究が進んでいます。このように、どんどん介護を取り巻く環境がよくなれば、介護のイメージも向上して、少しずつ問題も解決していけるとと思います。</p>   |
| <p>国や行政を挙げての努力</p>  |
| <p>介護をうける方々は、(お年寄りや命に関わる病気をお持ちの方)「死」というものに近い存在であると考えられています。実際は年齢や性別に関わらず誰もが「死」というものと隣り合わせで生きているにも関わらずそれが実生活において関係のないこととしてあつかわれていることが今日の現状です。ですので、最近多発している自然災害などにより突発的にもたらされる「死」という現実、観念的なものでしかなかったものを突如目の前に見える形として浮かび上がらせ人々に虚無の感をもたらしました。「死」について考えてこなかった私たちはそれへの接し方がわかりません。本来なら一人一人が「生」を受けたその時から「死」とは意識されなければならないものです。幸いにも現代の私たち日本人は戦争によって「死」を意識させられるということは稀となりました。医療やテクノロジーの進化もそれに拍車をかけています。また核家族化により子どものうちに「死」に直面することがないままに大人になる人もいるのではと思います。ですので悲惨な事件も発生してしまいます。「死」とは本来すぐ手の届くところにあるはずのものなのにそのことに気付かずに、意識もされないままに誰かの「死」を引き起こすこととなります。</p> <p>生きることは死ぬことです。</p> <p>大切な大事な崇高な介護の場が悪いイメージをもたれることが不本意です。「死」というも</p> |

のが理解されていないうちには「死」が近くに感じられる場所にいいイメージをもって頂くのは難しいのではとおもいます。それは介護の場だけではなくです。私はそうした考えに基づいた人々の選択といったものがあまり好きではなくて、「医療」の場と「介護」の場。お互いに「生」と「死」が共存しうる場所ですが、例えば「看護」の職は非常に人気のある職業だというふうに認識しています。それは人を「死」に近い場所から「生」へと導く為の場と考えられているからではないでしょうか。一方「介護」の場は「生」から「死」というベクトルが存在する場と認識されやすい傾向にあるのかもしれませんが。しかし、私はその考えは間違っていると思っています。全ての人間が「生」から「死」へという一定の方向へ進んでいます。「医療」と同じく「介護」も崇高でありもっと大切に扱われるべき場所です。私がここで言いたいことは「みなさんイメージなどの表面で物事を判断している」ということでありまして、「もっと本質をみていくことが大事」なのではないかということです。

それゆえ、私はこれからの青少年の教育に「命」を取り入れてほしいと思っています。その一環として「介護」の現場を体験させてあげることが非常に有益であると思います。私自身、小学生の頃の職場体験学習として介護施設を選択させて頂きました。当時の記憶として、誤解を恐れずに言わせてもらえば「楽しかった」ということが一番にあります。そこには子どもには未知の世界がありそのことが刺激として子どもに「楽しい」と思わせます。深く刻まれたその記憶は大人になった今も色あせる事無く残っており私を形作る要因となっています。5教科が大事なのは否定しませんが、それと比べられない大事なものとして「命」の教育があると思うのですがどうでしょうか？

アンケートですのにとどう質問を投げかけてしまいました。すいません。

正直申し上げまして、介護にいいイメージをもってもらうために企業がやられているブランドイメージや海外からの労働力の活用などは、あくまでも介護事業という一本の木の枝葉の部分でありそれはすぐに折れて、枯れてダメになってしまいます。肝心なのは幹の部分です。

小手先の技術や変化ではなく根本的な意識改革が重要ではないかと思います。

アンケートに長々と書き付けてしまい申し訳ありませんでした。

私自信「命」を意識した上での「介護」を勉強中であります。

ご指導よろしくお願いします。

介護職員の専門的な技術や知識をより高めること、子供から大人までさまざまな方を施設に招き、ご利用者様に行っている内容を細かく伝えたり、談話する機会やお手玉や折り紙をするなど、実際にご利用者様と関わっていただくことで、介護について関心や理解を得られるのではないかと思います。

|  |
|--|
| <p>いろいろ問題は深いですが、職員の賃金は上げなければいけないと思います。ただ上げるだけではなく、利用者の方のためにがんばった職員が報われる評価制度とともにあることが必要だと思いますが。</p> <p>今は、時間をつぶしに職場にきている職員も、プライベートまで犠牲にしている職員も同じ待遇なので、これでは質の底上げに限界があると思います。</p>   |
| <p>実際の介護体験談を話す場を設け、介護のプラス面を伝えていく。そうすることで大変と思われがちな介護のイメージを払拭する。</p>   |
| <p>このような介護を知る機会・イベントをたくさん設ける</p>   |
| <p>介護士の方にはいつも深く感謝いたしております。亡き母の時も、今回の父の時も、本当にお世話になっております。私も含めて、これから益々高齢社会、そのための人材確保にはテレビなどによるCMや、ショッピングモールなどに明るいポスターを設置するなど、イメージアップの広告宣伝をすればいいと思います。まずは、イメージアップだと思います。そうすれば、より介護について関心を持って頂けると思います。</p>   |
| <p>大学でも学生は介護職というと、やはり厳しいというイメージを持っています。しかし、エッセイにも書きましたが、介護の仕事は非常にやりがいのある仕事でもあると私は思います。その部分をもっと今の学生たちにも周知していければと考えています。</p>   |
| <p>甘いものではないし、言い尽くせ無いほど大変。自分が介護される側になってしまった時の事も真面目に考えなければ・・・。</p>   |
| <p>もっと気軽にボランティアで行けるような報告をどんどん出して欲しいです。</p>   |
| <p>○学校で教育を受けた介護福祉士を増やし、基礎知識を習得し応用知識・技術を高められる介護福祉士・介護職を増やしていく。介護職の社会的地位・認識を向上させる。</p> <p>○介護福祉士のレベルに応じた階級制度を設ける。例えば周辺資格(福祉用具専門相談員、福祉住環境コーディネーターなど)を持っていると、介護福祉士A級・・・。</p> <p>○地域社会の人材の活用。書道教室や生け花教室などの行事に、どんどん地域の特技を持っている方に参加していただく。</p> <p>○社会人が学校で学べるように、職業訓練制度を充実させる。失業保険だけでなく、プラス奨学金制度(10万円程度。無利子、5年勤めたら返還免除)</p> <p>○県の文化祭に合わせて、施設文化祭(オープン施設)を行う。毎年、1つの施設で、ご利用者様の作品展示し、外部の人も参加して文化祭(手品、歌声喫茶など)を行う。もちろん介護体験を行う。県や市の介護に関する職員さんや、社協などのケアマネが参加し、介護制度などの相談に応える。</p> |
| <p>介護や認知症が身近なものであると知ってもらう。高齢者や幼児、年齢を問わずふれあう機会自然とあり、互いに助け合える状態があればよいです。</p>   |
| <p>お年寄りとの交流を深める。</p>   |

|   |
|---|
| <p>ホームや施設の見学が気軽に出来るが良いですが、感染予防もあるので、なかなか難しいですよね。</p>  |
| <p>「介護」というと、「してあげている」や「体力や精神力を必要とするもの」という少し暗いイメージを持つ方も少なくないと思います。しかし、私は祖母と祖父の介護をしてきたのですが、そのようなイメージはありません。それは幼い頃から祖父、祖母だけでなく地域のお年寄りの方と交流があったからだと思います。なかなかお年寄りと接する環境のない方でも「介護」を身近に感じられるよう、例えば託児所や育児施設との交流など、子供たち、そしてその親たちというように幅広い世代と接する機会を設ける取り組みが大切になるのではないかと私は思います。</p>  |
| <p>とにかく中年男性を採用すること</p>  |
| <p>中学生・高校生による職業体験(介護職)の義務付け</p>   |
| <p>介護のイメージは？と聞いて真っ先に言われるのが「大変そう」「汚い」「給料が安い」「身体がもたない」等、プラスのイメージを持っている人が少ないです。たしかに楽な仕事ではないですし、教科書に書いてあること通りにはうまくいきませんし、きれいごとばかりな世界ではないと思います。しかし、楽しいこともたくさんあります。感謝させる機会がたくさんあります。笑顔がたくさん見られます。人生の大先輩に怒られることも褒められることもあり、勉強にもなります。</p> <p>また国がもっと本気で福祉について考え、介護の現実を目を向ければ処遇がもう少し改善されるはずであり、メディアがマイナス面ばかりをとりあげていることもあり、良いイメージが湧きにくいかもしれませんが、メディアより私たち介護職員の声を聞くといいと思います。</p> |
| <p>とつてもたいへん。</p>  |
| <p>介護の現実を、他人事ではなく身近な問題として理解してもらうために、あらゆる媒体を通して、もっとアピールするべきなのではないでしょうか。</p>  |
| <p>介護のイメージとしては、3Kで大変というイメージと天気の良い昼下がりに笑顔で車椅子を押して散歩だけするという楽なイメージの両極端が存在します。</p> <p>大方の人は、3Kのイメージを警戒して介護を職業とする事に抵抗を持たれている事が多いように思えます。</p> <p>ただそれとは別に、実際に【老いる】という事に直面したり、接する事が多かった人に対しては、介護を職にしたいという強い熱意が生まれやすそうです。</p> <p>そういった熱意を切っ掛けに、自信と成長を感じられるような人材育成が出来る環境を、どこの施設・事業所に行ったとしても行えるようにする事が、人材不足の解消や介護をより身近に感じて貰えることに繋がるのではないかなと考えます。</p>                            |

|   |
|---|
| <p>お祭りなど、お年寄りに触れ合う機会をつくり、老人への親近感をつくる事と、やはり給与を高くすればよいと、思われる。</p>   |
| <p>介護者の心の有り様を、世間に知っていただくため、このような機会を多く用意してもらい、全国のがんばっている同志の活躍を世間にPRしたい。</p>  |
| <p>メディアを通じた広報が出来れば最良かと思いますが、先ずはこのコンテストに応募された作品を書籍化し、学校や図書館に寄贈しては如何でしょうか。資金の調達は趣旨に賛同頂ける施設から寄付を募り、書籍最終ページに賛同頂いた施設の紹介ページを設ける事で介護業界への興味と理解を深めてもらえると同時に、人材不足解消に向けての将来的な取り組みへの第一歩になるのでは？と考えております。</p> |
| <p>地域の方の信頼、安心、をいただくため施設を知ってもらうための</p>   |
| <p>説明会や、介護予防教室で施設についてしてもらい必要がある</p>   |
| <p>介護に対するマイナスなイメージを払拭するために、大変なことを伝えつつも、楽しいこと、感謝されることがたくさんあることをメディアを通じて伝えていく。</p>  |
| <p>ピーアール活動を増やす</p>  |
| <p>今以上に、介護をアーピールする啓蒙・啓発活動を</p>  |
| <p>実際の介護現場を見ていただく。</p>  |
| <p>地域福祉の充実をはかるべく、福祉教育、福祉学習をする機会が子供の頃からあるといいと思います。</p>   |
| <p>義務教育期間時より、ボランティアや地域との交流を持つことで介護とは特別なことではなく、人として当たり前湧き出て来る感情であることだと、子ども達に経験させる機会を多く持つ事だと思います。</p>   |
| <p>介護はきつい労働のイメージがあります。実際に介護職の友人からもそういう話を聞くこともありますが、みな介護の仕事が好きだと言います。人の役に立てるのがやりがいになっているとも言います。そういう人たちに国は予算を多く作ってほしいです。</p>  |
| <p>介護はマイナス面ばかりを見て消極的なイメージを持たれがちですが、決してそうではないことを知ってもらえるよう、地域住民との交流会を開くなど、定期的に地域とのふれあいの場を設けることが大切だと思います。</p>  |
| <p>義務教育・高校の授業科目に福祉・介護を取り入れる。</p>  |
| <p>介護をする中から気付かされることをオープンにすることかな？</p>  |
| <p>私自身、介護について詳しくありません。介護と聞くと、介護をする側のほうが人手が少なくて大変だという話くらいしか知りません。SNSなどで情報が広く分かれば、若者にも身近な話と思えるかもしれません。</p>  |

|   |
|---|
| 交流を深めるようにしたらいいと思います。  |
| ポエムや写真を通じて、広く多くの人に介護従事者の喜びや感動を伝えていく   |
| 以前母校での職業説明会に参加させて頂いたところ、詳しい業務説明を行うと思った以上に関心を持って頂けたので、学生にはとにかくどういうことをやっているのか、詳しく説明したり、触れ合う場を作るといいのかもしれないと思いました。  |
| 給料が低いので、やはり待遇面をもっと良くしていかないといけないのでは？   |
| 全国の中学・高校にコンテストの冊子を配る  |
| 23年間の介護生活は、私たちにとって宝物です。たくさんの方々に出会い、助けていただきました。最後の5年間は介護施設での生活でしたが、想像を絶する程の、ハードワークを笑顔でこなしている職員の方々には頭が下がりました。給与、休暇面の充実はもちろんですが、これからを担う子どもたちに、高齢者を大切にす教育の強化が必要な気がします。核家族化の現代だからこそ、高齢者との関わりを深め、自然に思いやれる人に育てるプランを国基準でアピールしていただきたいとおもいます。 |
| 介護作文・フォトコンテストや介護川柳など介護を題材にした芸術文化をTV等のメディアで広く募集・紹介して、社会全体が超高齢社会になる日本における介護のやりがいや重要性について意識を高めること。   |
| 大人数で支える。出来る事はできる人にやってもらう。   |
| 新聞や地方放送局などに職員の活躍する写真やビデオを紹介する また、施設の入所者の音楽活動や作品の制作活動などの特色を積極的にアピールする。   |
| 新聞などの地方紙面や地方放送局に 職員の活躍する姿や施設入居者の音楽活動や作品制作活動などの特色を積極的にアピールする   |
| やっぱり、体験してもらうことかな。介護の喜びは、体験した人じゃないと、わからないと思うから。  |
| ヘルパーの資格を取得するための費用 66000 円位を分割でもOKや市役所等、身近のところで取得ならきっかけになりやすい。   |
| 実際に介護施設の見学などできる機会があるとよいなと思った。   |
| 難しいですね。77年介護してきて  |
| 介護の仕事はきつくて大変。人間関係につかれる。このイメージをなくすことが人材確保に繋がる気がします。職場内の雰囲気もよく職員同志で助け合えるそんな職場であれば、介護につく方も増えると思います。  |
| みんなが本音を言える社会、介護環境をつくること   |

|   |
|---|
| <p>介護職は低賃金という誤った情報をまずはなくすべき。<br/>介護と言う言葉自体を変えるべきのようなきがします。</p>  |
| <p>僕自身はそんなに辛い仕事と思わないのですが、世間一般ではやはり一昔前の3K職場に近いイメージがあると推察しています。ですので手始めに賃金を引き上げてみてはどうでしょうか！優秀な人材があつまるやもしれません。</p>  |
| <p>明確な資格体系、給与体系を前面に打ち出してほしい</p>   |
| <p>介護業界はきついイメージが1人で泳ぎ回っている。いいイメージを発信する事をもっとして欲しいです。</p>   |
| <p>絶対に報酬の面では金融業等にはかなわないですから、人と人との触れあい等のブータンのような価値観もあるということを知りながら教育というのも一法かなと思います。</p>   |
| <p>人にとって本当に大切なことを教えてくれる福祉の仕事のすばらしさを福祉の仕事に従事している人達を中心となって伝えていくこと</p>   |
| <p>小学授業に《介護》を入れ、思いやり精神を徹底繁殖</p>   |
| <p>様々な人の体験談を発表する</p>  |
| <p>かつて世界に例をみない日本の高齢社会は、視点を変えれば 高齢者福祉サービスの先進国にもなりうるものだと考察しております。政治・経済に委ねるだけでなく、国民一人一人が、身近な地域社会において、地域福祉に関わることが可能な伝統・催事・社会教育への参加の機会があれば地域の活性化⇒地域住民の協働⇒身近な福祉活動⇒人材育成に繋がると考えます。”福祉先進国日本”のイメージです。</p> |
| <p>社会全体が、「介護」を身近なものとして、感じてもらえるよう、積極的に交流会などを行うといいと思います。普段から定期的に接することで、絆が生まれ、愛情が生まれるからです。私の家も家族全員で介護に取り組んでいたのも、お世話になった家族やお年寄りを介護することは当たり前のことだという意識があります。普段から接して、介護を特殊なものとしなないことが大事だと私は思います。</p>   |
| <p>作文のフォームで書かせていただきました</p>  |
| <p>介護の産業に能力の高い職員が配置できるような施策を政府に打ち出してほしい。現在は他の産業の除外者が介護業界に集まるケースが多い。職員の資質が全国的に低いのでは…。一概には言えないですが。</p>  |
| <p>介護作文・フォトコンテストのような魅力を伝える機会が増えると良いのではないのでしょうか。</p>   |
| <p>妻がヘルパーで高齢者の世話をしています。参考になります。</p>   |



|   |
|---|
| <p>介護者に十分な賃金と休息を与える。国の支援と地域からお金を捻出する。</p>   |
| <p>病院勤務から介護の現場に転職。介護の努力、きめ細やかな援助に感心するばかり。ドキュメント番組などで取り上げてほしい</p>  |
| <p>施設の介護を見ていると、こんなことが誰もがやれたら、平均寿命はもっと伸びると感じる。介護の細やかな気配りのことを、若い人にもっと知ってほしいです</p>   |
| <p>人それぞれなんだから、3Kという言葉自体を無くしましょう。<br/>オムツ替え大好き。</p>  |
| <p>誰もが介護をする側・受ける側になる可能性があることを理解し、社会全体で支える必要があることを、普及していく。介護が必要な症状の理解・介護方法を普及し、介護を身近に感じてもらい、社会で支えていく。</p>                  |
| <p>今、介護を必要とする方も、かつては輝く日々があったことを忘れない。<br/>①にっこり笑顔②ありがとう③やさしさ。その3つを忘れず、自分が健康であればで幸せに仕事ができる介護職。を伝えたい。</p>                    |
| <p>○養成校のオープンキャンパスを継続すること。</p>   |
| <p>利用者と介護スタッフ、お互いに対して負担を減らすようなハード面の強化、お互いがよりよい関係でいられるソフト面の強化、職場の環境作り、意識して変えていける事は変えたほうがいいとおもいます。</p>                      |
| <p>もっと介護についての情報発信を増やす。<br/>ネット、ホームページ、映像、blog、等、Facebook などいろいろな方法で介護の現状を発信。</p>  |
| <p>小さい年代から、学校の授業などで介護について考える時間を設ける。</p>   |
| <p>このような介護作文フォトコンテストを、たくさんのメディアが取り上げ、周知できれば国民の関心度が高まるのではないのでしょうか。<br/>現場は今日も笑顔や感動に満ち溢れているのですから。</p>                       |
| <p>仕事にあった適切な賃金</p>  |
| <p>介護についてもっと一般のかたも考える機会が必要だと思います。</p>   |
| <p>テレビ番組などでもっと情報を発信していくべきではないでしょうか？</p>   |
| <p>人材不足の解消については、やはり お給料のアップだと思います。退職していく人の理由はやはり給料が安いとの理由みたいです。家族を持つお父さんとかはやっていけないみたいです。私の施設はまだ良い方だと思ってありがたいと思っていますが。</p> |
| <p>介護のイメージをよくするため 昔の「施設」＝「おばすてやま」のようなイメージをなくし、無理せず社会資源を活用しやすいような雰囲気を作る。そのため施設など資源側からも地域の祭りなどに出向き平素から気軽な雰囲気を作るのが良いと思う。</p> |

|  |
|--|
| <p>介護に関心を持つ事は、認知症などを他人事と思わず誰でもなる可能性があるという事を理解する必要がある。そのために認知症になった場合恥ずかしいなどという偏見をもたず、地域全体で支える姿勢が必要だと思う。</p>   |
| <p>子供の頃から、介護施設の見学や触れ合う機会を作ることが良いと思います。</p>   |
| <p>マスコミ・メディアの報道から過酷労働のイメージが強いので、明るく・楽しく仕事しているイメージを付けた方が良いと思う。介護をしている光景はよく見るので。一般企業のように社員同士での遊びのシーン等、働きたいと思わせる画が必要。</p>   |
| <p>介護職の地位向上</p>  |
| <p>90歳の祖母を両親が自宅介護しておりましたが今年施設へ入所させていただきました。最初は戸惑ってましたが、施設の温かい雰囲気のおかげで今は慣れてきたようです。何より両親に笑顔が戻ったことに安心しました。自宅介護は本人にとっては希望かもしれませんが、なかなか現役世代が付きっきりというのも難しい現状です。介護のスタイルには色々あるのでこれからもしっかり責任を持ってベストな選択をしていきたいと思います。</p> |
| <p>医療従事者の多くは幼いころその職業が身近に感じたときにその道を志したと思います。子供達が憧れるような介護士さん達の活躍に期待します。また、それをアピールできるような環境作りも大事だと思います。何より賃金アップに伴う将来への安心感がプロ意識、良い介護へつながり、ひいては将来の人材不足解消が期待できると思います。</p>   |
| <p>高齢化社会に向かって、みんなが必要に迫られる介護の認識を、もっと高めるような工夫が、普段から必要と思われれます。</p>  |
| <p>法人でも人材確保プロジェクトなる委員会をたちあげ、悪いイメージを払拭する手立てを考えています。</p> <p>インターネットの活用や、施設内でのマナー委員会から職員のマナーや態度の向上の育成が次につながるのではないかと日々頑張っております。</p>  |
| <p>義母の入所している介護施設には年配の介護士の姿がない。重労働ゆえかと思う。介護ロボット等の活用をもう少し考えてもいいと思う。</p>  |
| <p>メディアでは伝えきれない部分はたくさんあると思います。実際に足を運んで、高齢者の方と接することで、介護の素晴らしさ、楽しさを共有できるのではないかと思います。出会いの場を増やしてもらいたいです。</p>   |
| <p>社会全体に雇用問題(非正規雇用問題)があるので歳をとってからも安定した収入で働けることが大事だと思います。</p>   |
| <p>より地域の中に溶け込み、介護職員が利用者様と地域の方々との懸け橋になれるよう努めることだと思います。</p>  |
| <p>優しい笑顔を、PRすると良い印象を多く与えることになると思います</p>  |

|   |
|---|
| <p>若い方が敬遠しないための組織作り・魅力ある介護の仕事を実際に体験して頂くことで伝えていく機会を増やす。</p>  |
| <p>介護に興味を持っていただく人にも感謝の笑顔を。</p>  |
| <p>介護はきつくて低賃金というイメージを変えることができるかではないかと思います。</p>  |
| <p>介護職員の給与が世間並みになることが先決と思われる</p>  |
| <p>テレビコマーシャルなど、メディアの活用</p>  |
| <p>ゆるキャラ開発<br/>メディアの活用</p>  |
| <p>学校教育や地域活動等での体験学習会の開催。<br/>有名人等の介護体験談を交えた講演会の開催。</p>  |
| <p>家族が介護するのが当たり前の社会の実現<br/>家族介護助成金制度の創設ほか</p>   |
| <p>言葉や文章だけだと伝わりにくいけど、写真や動画といった媒体や今の時代ウェブを使ったりして呼びかけ、学校などで講演会的なモノを増やし、大人だけでなく子供たちに対してそういった『現状をまず知ってもらう』機会を多く作っていくことではないかと思います。</p>   |
| <p>介護の質向上と専門職としてのプロ意識向上のためにも、学生向けに介護体験などの行事を積極的に取り組み、介護の仕事を知ってもらうことで、関心と職の選択肢を広げられるようにする。また、それを教える側も知識技術の向上にも繋がると思う。</p>  |
| <p>一人一人の心がけと助け合い。</p>   |
| <p>介護業界は閉鎖的で家族も介護者を隠したがる傾向にあると思います。</p> <p>でもそれは違うんじゃないかなあ…と個人的には思います。</p> <p>認知や介護が必要なことは恥ずかしいことではなく、ごくごく普通なこととして地域活動の一環のように介護する環境があれば良いと思います。</p> <p>人材不足については…やはり給料面での低さがあると思います。</p> <p>遣り甲斐があるものの、死とも隣り合わせなしんどい職種だと思うので…もう少し優遇されてもいいんじゃないかなあと思います。</p> |
| <p>小、中、高などの学生の時から職場体験の形で介護とはどういったものかを知ってもらうと良いのではと感じます。現在は少なからず職場体験で来られる事もありますが、他の職業に比べ頭での想像がしにくいので接する機会を多く作ってあげたらと思います。</p>  |

|   |
|---|
| <p>“介護の仕事”と聞くと「大変でしょ」「すごいね」と周囲から言われますが、その言葉の裏には多くのマイナスイメージがあるのではいつも感じます。</p> <p>ボランティアの延長としてではなく、介護のプロとしての専門性が求められる今、介護職に求められるものも高くなっています。</p> <p>介護に携わる我々世代の多くの若者が、遣り甲斐を持って明るく楽しく働いていることをもっと多くの方に知って欲しいと思います。</p> <p>そして『お年寄りや障害をもつ方々とのふれあいを通して、介護の道を選んだ』という介護従事者も多いように、そういった方々と直接関わる機会が重要ではないでしょうか。</p> |
| <p>介護の世界の楽しい場面をもっとメディアに取り上げてもらったり、スタッフから少しずつ介護の世界を広めていったりする。処遇改善をもっと積極的にしていくべき。</p>   |
| <p>給料アップ及び子持ち世代が働けるように保育所の整備が必要と思われる。</p>   |
| <p>処遇の改善と施設内の情報発信</p>   |
| <p>老人ホームを見学していただく</p>   |
| <p>介護する立場になってみないと実際は現状がわからない状態になってます。もっと介護の手が必要ということをおんない形でも世間に広めるべきだと思います。これからの高齢化社会の為には若い方たちにもっと介護を理解してもらうことが必要だと思います</p>   |
| <p>小さい時から見て、触れて、一緒に過ごす時間を持てると、抵抗なく自然に受入れてもらえる気がします。</p>   |
| <p>このフォトコンテストや介護作文コンテストの継続。</p> <p>それをまとめられた DVD をいろんな場で目にして頂き、福祉の仕事の素晴らしさ・尊さなど、素敵な部分が多くの方に伝わることを願います。</p>  |
| <ul style="list-style-type: none"><li>・小学生や中学生等の学生を招き、高齢者との交流を図り、高齢者の気持ちを知ってもらう。</li><li>・このようなフォトコンテストを通して、介護の現場の雰囲気や高齢者とのふれあいを感じてもらう。</li></ul>   |
| <p>介護の仕事は、忙しく、体力も必要で、大変なお仕事だと思いますが、家族からとても感謝される、やりがいのある仕事でもあると思います。介護の現場での、心温まる、さまざまなエピソードを、いろいろな形で、興味深く、多くの人に伝えていくべきだと思います。</p>  |
| <p>介護のお仕事は、大変ですが、母の食事介助で、毎日通った療養病棟では、楽しいこと、爆笑することも一杯でした。そんな素敵なエピソードを、広く知ってもらえば良いのではないのでしょうか。</p>  |
| <p>療養病棟は、おばあさんや、おじいさんの、生きようとする力で一杯の、素晴らしい、笑いも一杯の場所だと思います。</p>   |

|   |
|---|
| 明かるい面、生命力あふれる力強い面、を広く知ってもらえると良いと思います。   |
| 給料を増やす。よりよい職場の環境を造る。  |
| 介護は昔より汚い・きついというイメージでしたが、今はそういう事はないので、昔のイメージをなくすようにしていけばいいと思います。   |
| 地域との交流等により、介護の明るいイメージを発信する  |
| 若い世代への広報活動をよりいっそう行う   |
| 介護の汚いイメージを取り除けるように働きかける。  |
| 介護の仕事にやりがい、喜びをもって取り組んでいる姿を見てもらうこと。やりがいをもって取り組んでいることを発信する事。  |
| 「介護」を特別視しない環境づくり。ヘルパー研修をもっと安くして誰でもすぐに介護の仕事ができるようにしてはどうか？技術は経験で学べると思います。   |
| 施設により多く来所していただける機会を地域に向けて発信していくことで、結びつきを強くする。   |
| 施設により多くの方が来所できるように地域へ発信していきながら、繋がりを強く持つこと。  |
| 積極的に施設を見ていただく。(行事日ではなく普段の日)   |
| 自然にそうなっていくとおもいます<br>人数が増えていくので  |
| 介護職は社会では3Kと呼ばれているが、若者にとって感謝・感動・カッコ良いの3Kとなる様、又、働き甲斐が感じられる様な処遇と職場風土作りが必要と思う。  |
| 社会が子どもを育てる責任があるように、介護を必要とする人も社会が支えなければならぬという、考えを育てていくしかないように感じる。誰もが老い、病気になる可能性があり、人はみな平等に尊厳をもって生きる権利があると、教育をすることが長い目でみて、そして超高齢化社会を迎える今の日本には必要なことだと思う。 |
| 自分たちが生き生きと仕事をする事。   |
| 高齢者に対して正しい知識を持ち、尊厳を持って日々接すること。  |
| 日々関心を持ち続けること。   |
| 地域に根ざした施設づくり  |
| オープンな環境。  |
| 利用者様・入居者様と職員との楽しい場面をもっとテレビなどで報道してほしい。   |

|   |
|---|
| さまざまな媒体を活用し、介護の楽しさを広めていくこと  |
| 地域交流をすすめながら地域の方に施設見学に来ていただく   |
| 地域交流の推進   |
| 施設見学に来ていただき地域との交流を深めていく。  |
| 介護を受けることや介護をすることが特別なことではなく普通のことと思われる社会であり文化であることが大切なのではないかと思います。<br>これから、介護の担い手になる子供たちに、小さい頃から「誰でもなりえる介護のこと」(どういう風になると介護状態になるのか、介護の現場ではこういう事をしている)などを教えていくことも必要ではないか。 |
| 介護されている利用者様のステキな笑顔が、もっと多くの人に知ってもらえればと思います。  |
| 処遇改善加算など、国からの支援など対策をもっと増やすこと。   |
| もっと若い世代のアイデアが反映される事が必要だと思います。<br>介護の仕事に誇りが持て、長く続ける事ができるよう労働環境や条件の整備も進めて欲しいと感じます。  |
| 介護従事者が介護について伝えていく。<br>(介護の未来を担っていく若い方々に)  |
| 給料を良くする   |
| 色々なPR、メディア等を通して、一般社会の方々に理解していただく。   |
| このようなフォトコンテストが良いと思います。  |
| きつい大変！と思われる方が、多いかとおもいます！現在介護職をしている私達が、なぜ、介護職を選んだのか？と聞かれた時に、直ぐに答えることの出来る様になる！幼稚園の時から、介護とは？学ぶと考え方が変わる！  |
| 介護は、利用者様から、たくさんまなべますれ<br>仕事の楽しさ！やる気を皆で、伝える事が大切だとおもいます！  |
| 介護職員が一人一人、職に誇りを持てる取り組みをする。  |
| アピール方法の多様化  |
| 解消に向けての対策としてはその職場がいかに楽しく仕事ができているかだと思います。  |
| 全国の介護施設がいかに楽しく仕事で来ているかが解決のポイントであると思います。   |

|   |
|---|
| <p>介護従事者の地位向上</p>   |
| <p>人材不足の対策には、子供の頃からの教育におとしよりと関わったり、介護を体験する取り組みを入れることが必要だと思います。</p> <p>また、採用後にどのように人材を育成するシステムを取り入れていくかも大切だと思います。</p> <p>介護への関心は、介護職が専門性をもって、楽しくいきいきと仕事をしていることを宣伝することですね。がんばりたいと思います。</p>  |
| <p>子供の頃からの体験学習や介護の魅力をどんどん新聞や報道で紹介する</p>   |
| <p>このような介護の良い部分、人間の温かさ、職員のやりがいとなる部分をコンテストとして開催することは非常に良いと思います。</p>  |
| <p>中学・高校の介護作文・フォトコンテストの冊子を配る</p>  |
| <p>全国の中学や高校に介護作文・フォトコンテストの冊子を配る。</p>  |
| <p>介護職に就きたいという若者は年々減っていますが、介護を必要としている人は増加しています。ですが、福祉を学びたい、人の役に立ちたい、と思ってくれている高校生がここにはいます。数は少ないですが、そんな生徒達に一つでも多く介護のやりがいや知識を伝え、感じられるよう、福祉に触れる機会を設けていくこと、また、それらを今度は生徒達が多方面へと発信していくことが必要だと思います。まずは、目の前の福祉を楽習している生徒をしっかりと支える事が重要だと思っています。</p>  |
| <p>介護士1人1人が技術・知識を高め、介護士にしかできない仕事をして、世間から「さすがは介護士だ」と思われるようにならなければならないと思う。それ以上に重要なのは自分が介護士であるということに誇りを持つべきだと思う。「給料が安い」「仕事がキツイ」「休みが少ない」「ウチの施設は…」と日々、暗い顔をして愚痴をこぼし、あまつさえ自分の職場やこの職種を唾棄している限り、永遠に介護士の社会的地位が上がることはないのではないだろうか。</p> <p>私は介護士であることを誇りに思っている。ツライこと・大変なことはあるが、年配の方で接して、いろいろなお話を聞ける、笑顔が見れる、それだけで幸せである。</p> <p>自分の写真が少しでも世間一般の介護士・介護施設の誤解・偏見を正し、介護を知ってもらえる掛け橋になることを祈って。</p> |
| <p>子どもの頃からの情操教育と学生時代に誰もが福祉体験をすることが一番大切に感じます。</p> <p>また各メディアを通して、さまざまな介護の場面、介護士という仕事の多様性を折に触れアピールすることも必要だと思います。</p> <p>上記のことを実現するためには、ロビー活動をするロビイストを持つことも重要なのかもしれません。</p>  |

|  |
|--|
| 明るいイメージでのPR  |
| 開かれた施設をアピール  |
| 体験会などを頻繁に開催し、どんな仕事かを知ってもらうことから始める必要がある。  |
| 体験会などを頻繁に開催し、どんな仕事かを知ってもらうことが、ミスパッチを防ぎ、長続きする職員を増やせるのでは。                        |
| 体験会を開催するなどし、介護の中身をよく知ってもらうことが必要  |
| 地域にむけての介護教室・介護ボランティアで職員が地域に出て行く  |
| こういったコンテストをもっと多くの方に見てもらう。介護従事者や学生のみならず、一般に広く知って頂けるように発信する。                     |
| 開かれた施設にし、地域方々とのふれあいの機会を増やす。<br>賃金の見直し。<br>休みが取れる環境作り。                          |
| このようなコンテスト等を定期的に関き、実際の現場をイメージ出来るものをどんどん公開していく。                                 |
| 労働条件の改善、世間へのアピール等  |
| 現場の実態をイメージ出来るものを積極的にアピールしていく事だと思います。このようなコンテストを世間にもっとアピールしていく事が大事だと思います。       |
| 労働条件の改善、世間へのアピール等  |
| ボランティアの活性化   |
| 給料面の改善しかないでしょう！  |
| 超高齢化社会を控え現状の段階では限界がある。   |
| 介護に関するセミナー開催等、日常的に多くの方が勉強できるような機会を作ったり、このような情報発信が良いと思います。                      |
| 高齢者が増加する中で日頃から介護のお世話にならない体力づくりを進めなければいけない。                                     |
| 毒舌になりますが申し上げます。楽をしている国会議員など税金で扶養されている身分の人々の給与を減らして介護従事者の給与を増額させるべきだと思う。        |
| 私の妻は、5年間の登録ヘルパーをしていました。<br>介護を取り巻く環境が、介護者の負担を減らすようになっていけば、介護のイメージは変わってゆくと思います。 |



|   |
|---|
| <p>私は過去に5年間、登録ヘルパーをしていました。今は、母の介護があるのでやっていません。介護を取り巻く環境が、もっともっとよくなれば、イメージも向上すると思います。</p>  |
| <p>過去5年間、登録ヘルパーをしていました。今は、母の介護があるので、やっていません。介護ロボットの開発など、色々な取り組みをしている人々がいます。そういうことをもっと万人に知らせてみたらどうでしょうか？</p>   |
| <p>家族を大切にするというのを教育環境の中でしっかりと根付かせて行くことができればいいなと思います。</p>   |
| <p>高齢者福祉事業をもっとオープンにし、各事業所が切磋琢磨する事で、環境、サービス内容の改善が図られイメージアップにも繋がる。</p>  |
| <p>閉鎖的な施設が多く、きつい・汚い等のネガティブなイメージが先行しがちな世界なので、施設自体をもっとオープンにして誰でも触れられる環境にある職場にしていく事が良い。利用者様のプライバシー保護が最優先なので簡単な事ではないと思いますが、自ら開いていかなければ第三者からの理解は得難いと思います。</p>  |
| <p>介護という暗いイメージを払拭すべきだと思います。</p>   |
| <p>介護職員の専門的な技術や知識をより高めること、子供から大人までさまざまな方を施設に招き、ご利用者様に行っている内容を細かく伝えたり、談話する機会やお手玉や折り紙をするなど、実際にご利用者様と関わっていただくことで、介護について関心や理解を得られるのではないかと思います。</p>  |
| <p>テレビやメディアを活用し、定期的に施設の現状や状況、行事の様子や入所者・利用者の声などを伝え、大変な仕事だが、やりがいのある仕事ということをわかってもらう。</p>   |
| <p>介護士1人1人が技術・知識を高め、介護士にしかできない仕事をして、世間から「さすがは介護士だ」と思われるようにならなければならないと思う。それ以上に重要なのは自分が介護士であるということに誇りを持つべきだと思う。「給料が安い」「仕事がキツイ」「休みが少ない」「ウチの施設は…」と日々、暗い顔をして愚痴をこぼし、あまつさえ自分の職場やこの職種を唾棄している限り、永遠に介護士の社会的地位が上がることはないのではないだろうか。</p> <p>私は介護士であることを誇りに思っている。ツライこと・大変なことはあるが、年配の方で接して、いろいろなお話を聞ける、笑顔が見れる、それだけで幸せである。</p> |
| <p>自分の写真が少しでも介護士・介護施設の誤解・偏見を正し、介護を知ってもらえる掛け橋になることを祈って。</p>  |
| <p>転職で介護職を選ぶ方が多くなっていますが、小中学生にももっと介護職に関心を持ってもらえるような働きかけが必要だと思います。</p> <p>介護は3K等と言われますが、それだけでないこと、写真のような笑顔を返してもらえる仕事だと広く知ってもらいたいです。</p>   |

|   |
|---|
| <p>施設内での行事や外部との交流の機会をなるべく増やし、一般の方などにも参加や見学がしやすいようにして、まずは現場を知ってもらうことが必要かと思います。また、介護を学べる講習会や相談会などを開くことも大切だと思います。施設の職員側からすれば大変なことだとは思いますが、そのような機会を設けて少しでも多く興味を持ってくださる方を見つけていくべきではないでしょうか。</p>  |
| <p>世界一の高齢化社会になりこの様な取り組みが介護のイメージを変えてくれると期待しています。</p>   |
| <p>ボランティア等の場所で介護の現場に少しでも直接に触れることで介護の必要性と重要性への理解が進むと考えます</p>   |
| <p>介護のやりがいを外部にアピールする。</p>   |
| <p>介護現場から素晴らしいこと、このような企画をもっともっと発信することは大切だと思います。しかし、現場は介護報酬です。現場が頑張れば、働き手もその代価が受け取れる。働く喜びをもっと感じれる制度に現場からの発信が必要だと思います。</p>  |
| <p>ホームページ等を活用し、介護現場の情報及び充実した研修制度をアピールしている。</p>  |
| <p>ファッション雑誌に介護現場の記事を掲載し、若年層が介護に触れる機会を持つ。</p>  |
| <p>芸能人を使ってのイメージ戦略！！</p>   |
| <p>介護施設の場を見たり 聞いたりする</p>  |
| <p>介護の場所を見る機会を増やす</p>   |
| <p>介護を受けている 祖父母から話を聞くと 一層関心を持てたので 一般にそんな機会があるといいです</p>  |
| <p>まずは賃金のアップの問題があると思います。</p> <p>あとは、施設やデイサービスで、一般の方が見学しやすいような環境を作り交流をはかることや、また一般の方が参加できる日を作ったりして、実際に介護の現場をみていただく、こころで触れて頂くことだと思います。</p> <p>私ごとで恐縮ですが、お給料が安くてもやってこれたのは、利用者さんとの心と心のふれあいができる「よろこび」があったからであり、お役にたてる「よろこび」があったからです。大変だけでなく、自らの「よろこび」になることをたくさんの方に知って頂くことにより、介護業界への人材確保につながってくると思います。</p> <p>主流メディアによる介護のニュースなども積極的にやっていただけると効果が高いとも思います。</p> |

全アンケート回答

実践

介護分野の業務独占に向け、誰にでもできない介護を構築していく。